

「心理」学部・学科の急増とその制度的背景

—高等教育行政との関連において—

早稲田大学大学院 酒井宏明

1. 目的と背景

本報告の目的は、高等教育行政のありように関連づけられうる、心理学と臨床心理学に関係する学部・学科の新・増設に関する推移を把握することにある。

そもそも心理専門職の抬頭について「社会の心理学化」論に鑑みると、臨床心理士資格化とスクールカウンセラー（SC）派遣事業制度化に対して、「心理学化」という趨勢の経験的証左としての言及がみられる。だがそこでは、これらの背後にある関係諸アクターの動向を含む制度史的変遷についての探究が課題として残るだろう。さらにこの点で（制度史的に）「社会の心理学化」論を補完しうる研究においても、本報告の観点については簡潔な事実確認にとどまっている。具体的には「文部省が新学科抑制から『臨床心理学科』等を除外した」（保田 2001: 19）ならびに「SCの需要の高まりを受けた文部省は臨床心理学科、心理学科の設立の規制を緩め、臨床心理士の養成機関の増加を支援した」（丸山 2004: 95）と記述されるのみである。そこで、大学および学部・学科等の新・増設「抑制方針」如何のもとで——心理専門職養成の基底となるだけに、関係諸アクターの長年の関心事でもあった——学部・学科の設置状況・量的規模の推移を把握するといった、本報告による基礎的作業は、現代社会における心理専門職の抬頭に関する制度論的読解に貢献するといえよう。

2. 方法

旧文部省時代からの逐次刊行物『全国大学一覧』の各年度版を検討することを中心として、学部・学科をはじめとした新・増設の推移を把握する。主に具体的には、その名称に「心理」という語句を含むものすべてをピックアップする。また『全国大学一覧』に加え、教育社会学における高等教育論の文献や高等教育に関連する行政文書を渉猟することで上の推移に関連する背景を示す。

3. 結果と結論

高等教育論が明らかにするとおり、大学学部教育の規模それ自体は 1980 年代後半から一転して拡張し続けている（伊藤 2013 など）。しかしながら、マクロ水準の規模とは異なり、こと心理学関連の学部・学科等に限定すれば、2000 年度に分水嶺が認められる。第一に、学部名称に「心理」を含む学部がはじめて大学に設置されたのは（大学設置基準「大綱化」における学部名称「規定上の例示」の廃止から間があって）2000 年度であり、2016 年度時点の設置数は 25 に及ぶ。第二に、学科名称に「心理」を含む学科の増設概況を確認すると、1980 年度から 1999 年度までは 16 件にとどまるものの、2000 年度の 14 件を含め、以降から 2010 年度までは 133 件にのぼる。

その一方で、この急増が「供給過多」を招くのではないかという疑問が生じる。大学マネジメントにおける新・増設および改廃という組織的流行のもと、係る学部・学科のうち 2016 年度時点で既に改廃を経験したものが数々散見されることは、これを示唆していよう。

文献

伊藤彰浩, 2013, 「大学大衆化への過程——戦後日本における量的拡大と学生層の変容」 広田照幸ほか編『大衆化する大学——学生の多様化をどうみるか（シリーズ大学2）』岩波書店, 17-46.

丸山和昭, 2004, 「専門職化戦略における学会主導モデルとその構造——臨床心理士団体にみる国家に対する二元的戦略」『教育社会学研究』75: 85-104.

保田直美, 2001, 「戦後日本における学校への臨床心理学的知の導入過程」『大阪大学教育学年報』6: 13-24.